

避難訓練講話

- ・ 避難訓練の感想を述べた後、今回については、『火災』の訓練でしたが、災害時の『避難訓練』全般についてのお話をします。
- ・ 学校現場で『火災』は、あまり無いのではないかと思っていましたが、昨年度、小学校の調理室から出火というのがありました。
- ・ 君たちは、学校にいる時間よりもお家にいる時間が長いです。自分の家が火事でなくても、隣近所から出火という場合もありますし、
- ・ 『修学旅行』や『自然体験学習』などの泊行事に出かけたときには災害に備えて、班長会議や室長会議では必ず『避難経路』の確認を行います。
- ・ いつも生活している場所であっても、一時的にしかいない場所であっても、おそろかになりがちですが、その時々に確認しておくことは大切です。
- ・ 25年前の『阪神淡路大震災』の時は、その後の火災で大きな被害が発生しました。10年前の『東日本大震災』の時は、津波による被害が甚大で多くの命も失われました。
- ・ 私は、災害時(自然災害や人為的な災害)に最も大切なことは、どれだけ多くの人が冷静に正しく判断し、動くことができるかだと思っています。
- ・ 例えば、皆さんが学校にいる時間帯に、『南海トラフ巨大地震』が発生し、運動場の真ん中に避難しなければならない状況が起こった時に考えられることは、
- ・ 怖くて動けない人が学級でも何人か出てくるのではないかと思います。何人かは、倒れたりしてケガをしている人がいるかもしれません。
- ・ 泣き叫んでパニックに陥っている友だちがいるかもしれません。そのような中でどれだけの人が、冷静になって先生方の指示や放送での誘導を聞けるのかがとても大切になってきます。
- ・ これは、学校以外の場所にいる時も同じで、マンションの住民の方々と協力して避難するや、USJに遊びに行った時にこのような状況になった場合、どれだけ避難誘導の指示に従えるかが、自分の命を守る、他人の命を守る大切なことであると考えます。
- ・ そのためには、『防災』や『減災』の知識を身につけて、訓練等で体験しておくことはとても重要です。